

練馬総合病院における がん性疼痛に対するオピオイドの使い方

財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院 発表:薬剤科 鈴木 美奈子

清水由紀, 片山絵里子, 中島みゆき, 佐藤弘樹, 金内幸子(薬剤師)

栗原直人, 井上聡(外科医師) 三嶋ミナ子(看護師) 林加津恵(事務)

1. はじめに

練馬総合病院では医療の改善活動としてMQI活動を実施している。平成20年度MQI活動では薬剤科が中心となりチームを結成し、がん性疼痛コントロールにおけるオピオイドの適正使用についての活動に取り組んだ。

2. テーマ選定理由

がん性疼痛を取るためには、オピオイド(医療用麻薬)を効果に使用することが必要である。がん性疼痛におけるオピオイドの使い方は通常の薬の使い方とは異なっているため、基本的ガイドラインが必要であるが、当院には基本的ガイドラインがない。そこで基本的ガイドラインを決める必要がある。またオピオイドの管理に対する業務は複雑であるため、その業務を整理しオピオイドを使い易くする必要がある。そして疼痛コントロールの指標を明確にして、患者の痛みをやわらげたいと考えた。

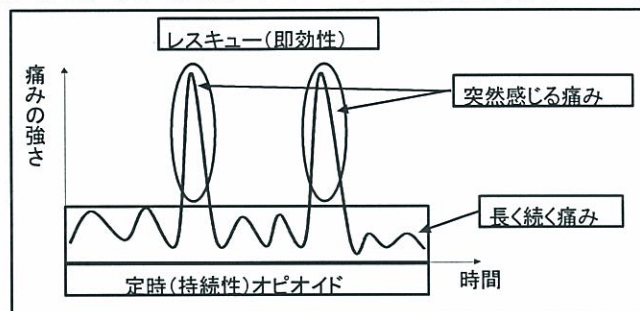
3. 背景

＜がんの痛みとオピオイドの使い方＞

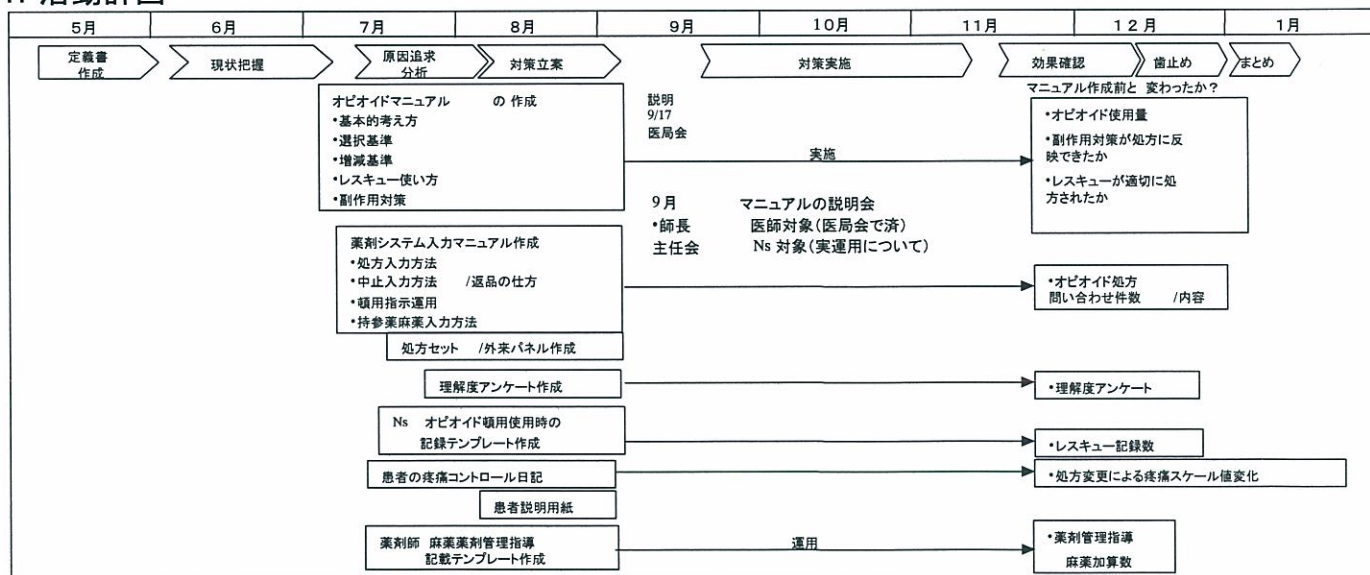
がんの痛みには「長く続く痛み」と「突然感じる痛み」がある。長く続く痛みには、効果が持続する定時のオピオイドを使い、突然感じる痛みには、素早く効果を発揮するレスキューオピオイドを使う。

＜オピオイドの投与量と副作用の発現＞

オピオイドは痛みが取れる前の少ない量でも吐き気や便秘の副作用が出る。そのため、薬を使って予防することが必要である。また、オピオイドが過量になると、呼吸抑制などの副作用が出るが、これは10倍の量を投与しなければ出てこない。死亡にいたっては300倍以上の量を投与しなければその危険性はないというデータがある。



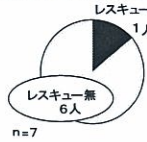
4. 活動計画



サークル名		キュービー (Quality of Palliative)			(2008年5月結成)		
リーダー氏名(職種)	鈴木美奈子(薬剤師)	所属部門	医療技術	月あたり会合回数	2回		
リーダー経験年数	8ヶ月	QCストーリー	問題解決型	平均会合時間	45分		
メンバーの数 10人	(うち男性3名 女性7名)	活動内容	質	テーマ歴	1件	平均会合出席率	75%

5. 現状把握

H19年10月～12月
当院レスキュー処方状況



ほとんど レスキューの処方がない

患者の突発痛をすぐに取り除けない

H19年10月～12月
オピオイド処方時の吐き気止め処方状況



半数近くで吐き気止めが
処方されていない

吐き気によりオピオイドが服用できず
痛みが取り除けないことがある

6. 目標設定

全ての患者にレスキューが
処方されるようにする！！

全ての患者に吐き気止めが
処方されるようにする！！

7. 原因追求

評価が不明瞭

説明不足

知識不足



周知されていない

手順が複雑

オピオイドの使い方がうまくいっていない

8. 対策立案

要因

対策

知識不足

手順が複雑

周知されていない

評価が不明瞭

患者への
説明不足

①NGHがん性疼痛
コントロールマニュアルの作成

②麻薬処方マニュアル作成

③勉強会の実施

④処方パネル作成

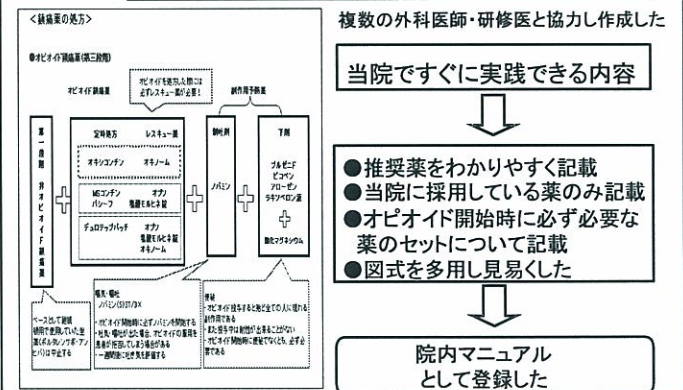
⑤電子カルテの
レスキュー用テンプレート作成

⑥患者用説明書作成

⑦患者の痛み日記運用開始

9. 対策実施

① NGH がん性疼痛コントロールマニュアル作成



9. 対策実施

② 麻薬処方マニュアル作成

麻薬の施用は薬事法での
規定に加え院内独自の規
則もあり煩雑な上に、院内
規則が不明確であった

単純で分かりやすくなるよ
うに、院内規則を見直した

麻薬処方マニュアルを
作成し、明文化した

9. 対策実施

③ 勉強会の実施

院内勉強会

- 第1回 内科医局
- 第2回 外科医局
- 第3回 全体
- 第4回 5階病棟
- 第5回 4階病棟
- 第6回 2階病棟
- 第7回 内科医局
- 第8回 産婦人科医局
- 第9回 泌尿器科医局
- 第10回 3階病棟
- 第11回 整形外科医局

合計のべ107人出席 ⇒

医師 29人
看護師他 78人

勉強会のお知らせ

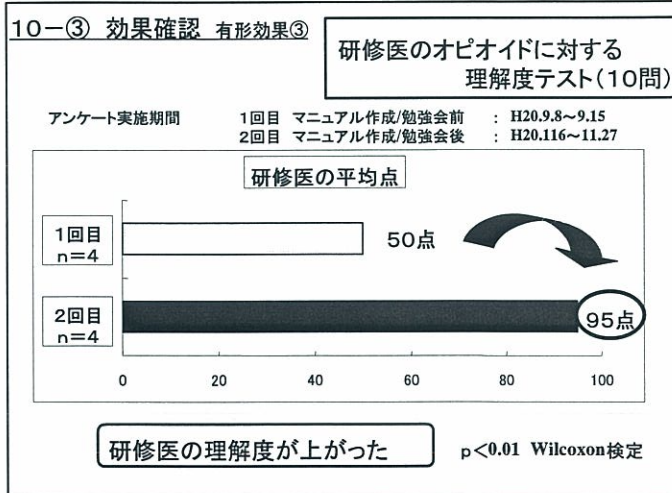
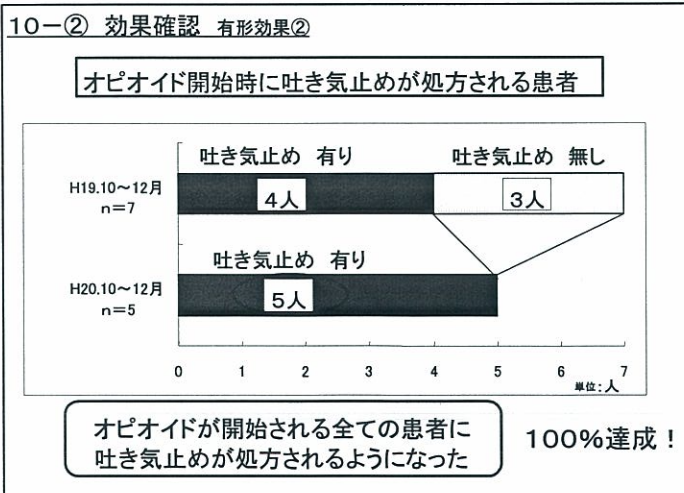
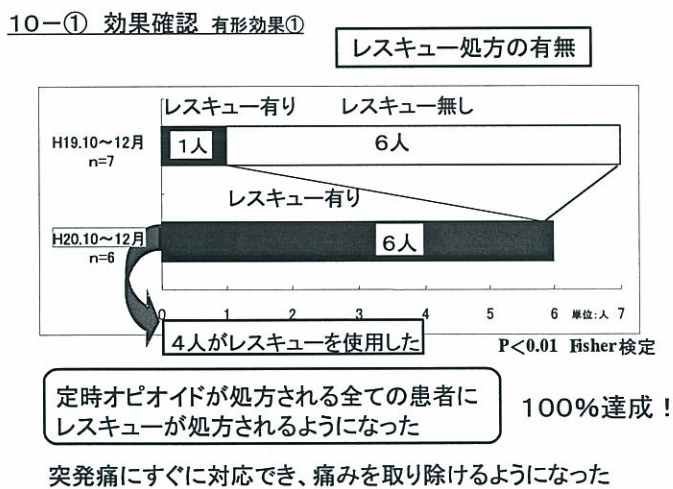
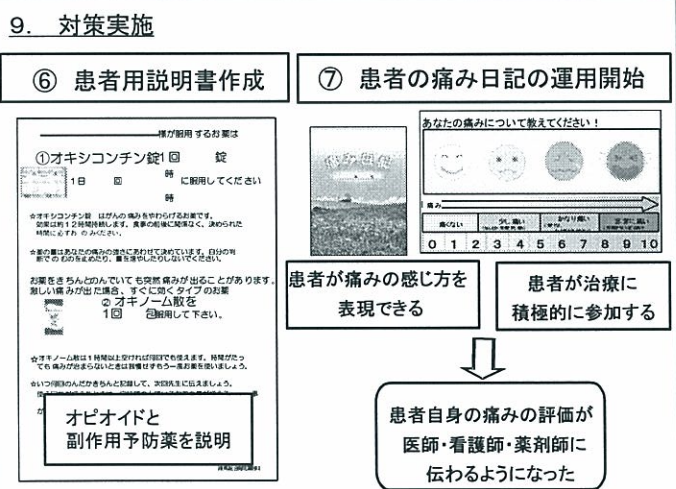
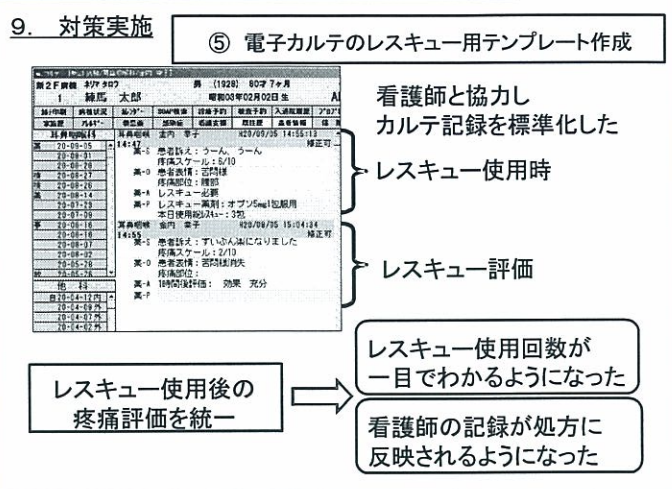
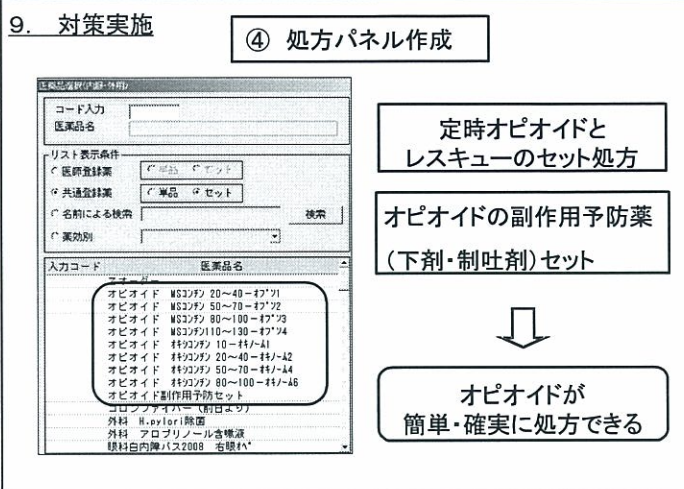
NGH オピオイドマニュアル 勉強会

院内で使用するオピオイドの知識が深えられました。基本のオピオイドマニュアルを共有したことで、統一した対応が実現しました。

日程：平成 20年11月6日（木） 17:45～18:15
開催：5階大講堂

主催 薬剤科

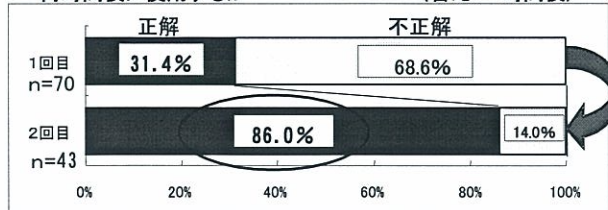
マニュアル内容を説明し
知識の向上につながった



10-④ 効果確認 有形効果④

看護師のレスキューに対する正しい認識

Q レスキュー使用後まだ疼痛が残っていて次を使用したい場合
何時間後に使用するか (答え: 一時間後)



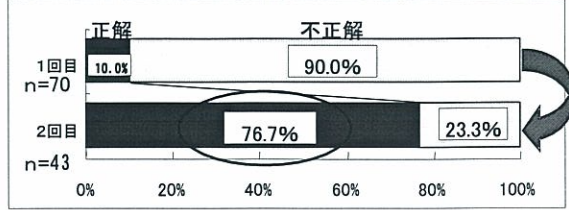
レスキューを使用する正しい時間を
理解できるようになった

$p < 0.01$ χ^2 検定

10-⑤ 効果確認 有形効果⑤

看護師の副作用に対する知識

Q 麻薬の投与量と副作用(呼吸抑制)に関して正しいものは
(答え: 麻薬の鎮痛効果の得られる量の10倍で発現する)



オピオイドの呼吸抑制の副作用を
正しく理解できるようになった

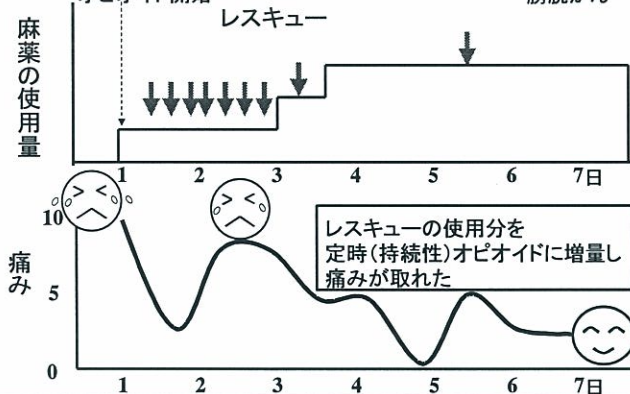
$p < 0.01$ χ^2 検定

10-⑥ 効果確認 無形効果

患者さんの痛みが
早く取れるようになった!

症例提示

84歳 女性
膀胱がん



10-⑦ 効果確認 波及効果

- ・ 薬剤科が疼痛コントロールに対して積極的に関わっているということが院内で広く認知され、疼痛コントロールについて相談される機会が増えた
- ・ オピオイドに対する、医師・看護師の関心が高まっただけでなく、院内全体のオピオイドに対する関心が高まった
- ・ 看護師の電子カルテのテンプレートを作成したことで、がん性疼痛に対する評価の標準化ができた
- ・ がん性疼痛だけでなく、疼痛評価全般に対する看護師の認識が高まった

11. 歯止め・標準化

誰が	誰に	いつ	何を	どうする
薬剤師	医師	入職時	NGHがん性疼痛コントロールマニュアル オピオイド処方マニュアル	説明する
	研修医	入職後 2~3ヶ月以内	NGHがん性疼痛コントロールマニュアル オピオイド処方マニュアル	説明会を開催する
	職員全員	定期的 (半年に1回)	NGHがん性疼痛コントロールマニュアル	説明会を開催する
		新規オピオイド採用時	NGHがん性疼痛コントロールマニュアル 患者用説明書	改訂する
		定期的 (年1回)	NGHがん性疼痛コントロールマニュアル オピオイド処方マニュアル	見直しをする
看護師		必要時	NGHがん性疼痛コントロールマニュアル オピオイド処方マニュアル 患者用説明書	改訂する
	新人 看護師	入職時	オピオイド処方マニュアル 電子カルテへのレスキュー使用時の記載方法	説明する

12. 今後の課題

緩和ケアチームを立ち上げる

- ・ 患者の身体的痛みだけでなく、患者や家族の精神的痛み、社会的痛みを和らげる
- ・ 院内で緩和ケアを普及させる為に中心となり教育などを行う
- ・ 緩和ケア対象者のカンファレンスを定期的に行う